２０１８年度

事　業　報　告

社会福祉法人にじのこ福祉会

概　　要

Ⅰ．にじのこ福祉会の概要

１．法人の概要

経営主体	社会福祉法人　にじのこ福祉会
所在地	岡山県岡山市中区桜橋三丁目1番51号
	ＴＥＬ　086-272-4111
	ＦＡＸ　086-272-4171
代表者	理事長　浪尾淑子
法人設立年月日	2010年７月１日

２．理事会・評議員会　開催状況

（1）理事会開催状況

開催年月日	出席者人数	議題	欠席者氏名	出席監事氏名
2018 5/28	理事6名 監事2名	**第1回理事会** 第１号議案　2017年度事業報告および決算について 第２号議案　評議員会の招集について ○報告事項	入江慶太	岡野鈴子 藤原弘典
2018 7/10	理事7名 監事2名	**第2回理事会** 第１号議案　職員の処分について 第２号議案　特別休暇の付与について ○報告事項		岡野鈴子 藤原弘典
2018 7/26	理事5名 監事1名	**第3回理事会** 第１号議案　職員の処分について ○報告事項	﨑本明雄 清水博文	岡野鈴子
2018 10/30	理事7名 監事2名	**第4回理事会** 第１号議案　土地の売買契約締結について 第２号議案　2018年度第1回補正予算について 第３号議案　処遇改善等加算について 第４号議案　特別休暇の付与について 第５号議案　評議員会の招集について ○報告事項		岡野鈴子 藤原弘典
2018 11/20	理事7名 監事2名	**第5回理事会** 第１号議案　規定類について ○報告事項	清水博文	岡野鈴子 藤原弘典
2019 3/7	理事7名 監事1名	**第6回理事会** 第１号議案　定款変更について 第2号議案　土地の売買契約締結について 第3号議案　2018年度補正予算について 第4号議案　2019年度事業計画書について 第5号議案　2019年度当初予算について 第6号議案　2019年度役員等報酬総額について 第7号議案　保育所の認可に関する変更事項について 第8号議案　運営規程の改定および重要事項説明書について 第9号議案　評議員会の招集について ○報告事項		藤原弘典

2019 3/25	理事6名 監事1名	**第7回理事会** 第１号議案　労働組合への回答書について 第2号議案　規定類の改定および協定書について 第3号議案　当座貸越の契約更新について 第4号議案　運営規程の改定および重要事項説明書について ○報告事項	﨑本明雄	藤原弘典

（2）評議員会開催状況

開催年月日	出席者人数	議題	欠席者氏名	出席監事氏名
2018 6/19	7名	**定時評議員会** 第１号議案　2017年度事業報告および決算について ○報告事項	山崎晶弘	岡野鈴子 藤原弘典
2018 10/20	7名	**第2回評議員会** 第１号議案　2018年度第1回補正予算について ○報告事項	武田英夫	岡野鈴子 藤原弘典
2019 3/25	7名	**第3回評議員会** 第１号議案　定款変更について 第２号議案　2018年度補正予算について 第３号議案　2019年度事業計画書について 第４号議案　2019年度当初予算について 第５号議案　2019年度当初予算について ○報告事項	森岡健司	岡野鈴子 藤原弘典

3．監事監査の実施状況

（１）監査日程等

2018 年 5 月 24 日（木）10:00～

岡野鈴子監事（業務監査）・藤原弘典監事（会計監査）

（２）監事監査の評価

〇保育事業について

・保育全体において、園長が掲げている目標を、みんなで丁寧に運営していた。

・計画も細かく丁寧に立案され、職員の育成に力を入れているが、子どもを捉える目が養われる書き方だった。特に、クラスの運営では、保育士の動きが人ごとに細かく記載され、実践後の課題や努力目標の記載もあった。

・個人記録も、子どもの細かい様子が記録され、子どもが、生き生きのびのび落ち着いた生活を送れていることに繋がっていると感じた。

・実践を、丁寧に実施して保育士が育てば、子どもを見る目が養われ、子どもを捉えた日案も立案できる。保育士も、予習をしながら復習をして成長できると感じた。

・障害児保育では、一人ひとりを大切にする保育を丁寧に実践していることを理解した上で、個々の子どもについて、発達障害の種類や療育機関の名称など、一目瞭然でわかる記録を追加することを提案した。公立保育園では、これらを詳しく記録していることも、合わせて報告した。

・安全対策では、避難・消火訓練は毎月実施されており、火災、水害、地震も計画通り行われていたが、不審者の訓練は実施されていなかった。門扉や非常通報装置が

整備されたが、非常時は想定外の事態なので、柵を飛び越えて侵入するなどの想定外もある。不審者に対する避難訓練でなくても、年に1回程度は、職員会議で確認することを提案した。

〇計算書類及び運営・管理について

・経営は、極めて良好で、積み立ても順調に行われていた。

・職員が働き続けられる職場環境づくりでは、人づくりに力を入れていることは大切だと感じた。お互いに意見の出やすい職場作りができ、相談しやすい職場になっているという話を受けたので、引き続き努力して欲しい。

・岡山医療生活協同組合から提案のあった「企業主導型保育事業」については、白紙になったが、マイナスと捉えるのではなく、一度立ち止まってしっかりとした基盤作りをしたいという話があった。今年は、事務所の労働環境改善に力を入れたいという話があり、保育現場の職員労働環境の改善は少しずつ進んできたが、事務所も含めた力の結集が、事業の運営にとって大切になってくるので、しっかりと進めてほしい。

以上の評価を受け、2018年度は、以下のことを実施した。

① 障害児の記録は、公立園の書式をもとに作成した。

② 不審者訓練は、実施できなかったが、不審者が侵入した際の職員の動きや役割分担を決め、シュミレーションした内容を文章にし、職員に配布し確認した。

③ 事務所の労働環境改善については、2018年度に具体的な手立てはできなかったが、2019年度は、主任を担任からはずした体制をつくり、取り組みたいと考えている。

4. 職員採用状況

（1）2018年度職員採用状況

保育士　2名

＊新卒者（山陽学園短期大学）　射矢　瑞穂

＊既卒者（笠岡：新川保育園）　小野　晶

管理栄養士　1名

＊新卒者（美作大学）　米田　みのり

（2）2019年度職員採用試験

（保育士）2018年12月22日（土）12:45～16:30　新卒1名採用

2018年12月25日（木）12:30～16:30　新卒1名採用

（栄養士）2018年12月25日（木）12:30～16:30　新卒1名採用

（3）職員採用状況

職員採用状況については、保育士不足を実感している。

採用活動としては、岡山県内の保育士養成校及び、県外の採用経験のある養成校に求人票を送ることで、求人の告知をしている。

また、「岡山市私立保育園・認定こども園園長会就職フェス」「山陽学園短期大学保育士合同面談会」などに参加して、学生に、直接保育園の話を聞いてもらえる機会

を大切にしている。

実際、採用に至ったケースは以下の通りとなっている。

一昨年（2018年度採用者の場合）、新卒は「合同面談会」に参加して、保育内容に興味を持ってくれた人が採用された。また、既卒者保育士は、現職保育士の知り合いを通じて、転居を機に当園を受験し採用された。

2018年（2019年度採用者の場合）、求人票を何度出しても応募者がいなかった。採用に至ったケースは、知り合いから聞いて受験した者と、当園の保護者でもある養成校の教員から求人の情報を得た者とあり、両者ともに他園を見学した上で、当園の受験を選択してくれた。

役員が、養成校を訪問しても採用に至っていない保育園も多いと聞いているが、2019度は求人票を出すだけではなく、学校訪問が必要だと考えている。

また、就職面談会やフェスタで直接話を聞いてもらったり、知り合いの紹介で採用に至る機会が多くなっているため、役員や評議員、保護者の協力も得ながら、意識して取り組む必要があると感じた。

5. その他の事業活動状況

・岡山協立保育園　特別警報の発令による休園（7月7日）

事　業　報　告

Ⅱ．法人事業報告

2017年４月１日に実施された、国による社会福祉法人の制度改革から1年を経過し、理事会や定時評議員会の実施など、円滑に法人運営をすすめてきた。任期も6月の定時評議員会から2年目を迎え、新しく参加していただいた理事・評議員からも、理事会や評議員会において、地域の状況などを発言していただき、活発な会議となった。その他、7月に懲戒についての協議が必要となったため、理事会を開催して、就業規則に基づき必要な手続きを行った。

2018年7月には、園庭の南側に隣接する地域住民から、土地の譲渡についての打診を受けたため、理事会で協議を行い12月に土地を取得した。また、2019年1月には、駐車場用地として土地を借りている㈱協同プランニングより借地の譲渡についての打診を受けたため、理事会の協議で2019年4月1日に土地の取得をすることを決定した。

また、7月の豪雨災害で園舎等への実質的な被害は無かったが、2018年7月7日（土）を特別警報の発令による臨時休園としたほか、職員には就業規則に基づく特別休暇を付与した。この災害が契機となり、警報発令時における休園基準なども、岡山市のガイドラインを基に理事会で協議を行い、一定の基準を定めて保護者に周知した。

１．岡山医療生活協同組合との連携

（1）地域の子育てを応援する活動

毎月開かれる「子育てサポート委員会」に出席し、医療生協とともに子育て支援に取り組んだ。具体的には、お母さんたちの「ママ's カフェ」や「タッチケア」、小学生を対象とした「宿題応援隊」、お母さんや祖父母世代が参加する「子育てサポーター養成講座」など、様々な世代の子育てに関する活動をサポートした。今後も、サポート委員会の取り組みを通じて、地域の子育てを支える活動に取り組みたい。

（2）園児と高齢者との交流

園児（5歳児）は、毎月開かれる「旭東学区ふれあい会食」に参加し、高齢者との交流を楽しんだ。最近では、ふれあい会食に参加する高齢者の数が減っているが、核家族化が進む中、日常的に高齢者と関わることが少ない園児にとって、貴重な体験になっている。今後も、旭東支部と連携しながら進めていきたい。

２．職員が働き続けられる職場環境づくり

（1）職員給与の改善について

待機児童問題を発端に、保育園で働く職員、特に保育士の確保が急務となり、かつてない処遇改善が進められている。これにより、2014年度以降は、毎年、人事院勧告に基づく公定価格の人件費分が、改定されている。2014年度は＋2.0％の改定、201

5年度は＋1.29%の改定、2016年度は＋1.3%の改定、2017年度は＋2.0%の改定に加えて、岡山市処遇改善2.0%の支給と経験技能に応じた改善（処遇改善Ⅱ＝キャリアパス）の創設、2018年度は公定価格の人件費分＋0.8%の改定が実施され、徐々に保育園職員の処遇が改善されている。

これらにより、給与改定の課題であった前歴加算の改定（2014年度予算で2015年度実施）、住宅手当の創設・初任給含む6年目までの給与改定（2015年度予算で2016年度実施）、サポーター手当の創設・キャリアパス構築に関連する役付き職員の手当の創設と見直し・短時間勤務職員の時給改定と通勤手当の創設（2016年度予算および2017年度予算で2017年度実施）などの改善をしてきた。また、人事院勧告に伴う一時金の引き上げは、2016年度から継続的に毎年実施してきた。

2014年度以降の改定で支給された金額は、毎年、国や地方自治体の規定により職員の人件費として使われているかの確認がなされる。2018年度は、2014年度以降の改定分に相当する収入が、総額で約1,950万円になっており、法人の改定分としての支出額は約2,060万円になっている。よって、改定に伴う法人の持ち出し額は、110万円程度になっていている。

（2）働き続けられる職場環境づくり

保護者の労働を支え、子どもにより良い発達を保障する保育園職員は、社会の多様なニーズへの対応が求められるとともに、個々の子どもや家庭への細やかな配慮が求められる。そんな中、保育労働は一段と過密化し、職員に大きな労働負担やストレスがかかっている。働き続けられる職場環境づくりでは、「子どもの幸せと家族の幸せと職員の幸せを同時に保障する」ことが求められ、保育園職員のそれぞれの実情を把握した職場環境づくりが必要になると考えた。そして、ここ数年は、様々な取り組みを試みることで働き続けられる職場環境の改善に取り組んでいる。

① 希望休暇の取り組み

子育てや介護、私的な予定を、勤務表に反映できるように、誰でも「希望休暇届出書」を提出でき、それに従った勤務を作成している。希望休暇は、多い月と少ない月があるが、1か月に約 40 日から 60 日の希望休暇が出る。そのために必要な「代替え職員」を、各年齢に準担任として配置することで、ほぼすべての希望を叶えるとともに、子どもの処遇への影響を最小限に留める努力をしている。

② 有給休暇取得

特別なことがない限り有給休暇の取得は難しかったが、勤続3年目から 3 日間、5 年目から 5 日間など計画的な有給休暇の取得ができるようにした。また、年度末など体制が可能な時は、取得日数が少ない職員から優先的に有給休暇の消化ができるようにした。2018 年度の有給休暇平均取得日数は、正規職員で 12.9 日、非常勤フルタイムで 17.6 日になっている。

また、岡山労働局主催の「保育園　働き方・休み方改善アンケート」の実施があった。その中で、有給休暇取得率の調査結果は、全国平均（一般労働者）は 49.4%で、全国平均（医療・福祉）は 52.5%で、岡山協立保育園は 73.7%だったことから、全国平均に比べて、取得率が極めて高いことがわかる。

③ 事務時間の保障

保育士は、勤務時間のほぼ全てを子どもと過ごしている。計画や記録などの事務時間は、通常の保育体制の中では難しい。そんな中、多くの保育士は、持ち帰っての残業を余儀なくされていた。しかし、近年は、個人情報の管理が厳しくなり、園外への書類の持ち出しを禁止しているため、事務については残業せざるを得ないが、家族に負担をかけるため、それも難しい状況があった。そこで、これらを解決するため、希望休暇取得を目的に配置した「代替職員」を、事務保障の代替にも活用するようにした。この取り組みにより、クラスリーダーは月 1.0 日程度、担任は 0.5 日程度の事務時間の保障ができた。月末や月初のタイミングで事務保障するところまで、細やかに対応できていないが、まとまった時間を子どもから離れて記録したり計画することができるので、現場保育士からは喜ばれている。

給食職員は、調理温度や衛生面での日々の記録、翌日の献立指示書を基にした確認会議の実施など、日々の対応が必要になってくることから、給食職員を定数より増やし対応している。

④ 相談しやすい体制づくり

以前は、主任が各クラスの相談窓口になり、直接指導するやり方で取り組んでいたが、現場保育士が、日々の悩みや気づきを相談しやすいように、3 歳未満児の各年齢に相談指導の担当者としてサポーター（中堅保育士）を配置した。また、中間層を作り、果たすべき役割を受け持つことで、次世代の管理職を育成する上でも体系的に取り組めると考えた。

担任からは、「相談がしやすかった」「話し合いに入ってもらって、的確にアドバイスをもらえてよかった」などの感想があった。サポーターからは、「3 未、3 上の連携がとれた」「3 未の子どもの育ちを客観的にみることで、3 上に向けて何が必要か、考えるきっかけができた」などの感想があった。

⑤ キャリアパスの体制作り

キャリアパスの対象者には、研修の受講が義務付けられている。これらの研修については、研修後発行される証明書が、対象者個人の取得した資格として取り扱われるため、受講者は有給休暇を使い自費で研修に参加することにした。

また、キャリアパスの対象者には、経験年数や園内の責任と業務量に応じて、支給金額を設定し、その役割を果たしてもらっている。業務や支給金額については、理事会の承認を受け実施している。

概　　要

Ⅰ．岡山協立保育園の概要

１．地域の概要

岡山協立保育園は、岡山駅から車で約 10 分のところに位置しており、高齢者とともに、近年では乳幼児も増えている地域になっている。また、周囲には多くの認可保育園や認定こども園、無認可保育所などがあり、保護者は勤務地に近いなどの理由で利用するケースが多くなっている。

園児が在住している地域は、３月末日の統計で、中区が一番多く約 67.3%、南区が約 16.2%、北区が約 13.5%、東区が約 2.7%になっている。地元東山中学校区の割合は、全体の約 31%（平井小学校区約 20.2%、旭東小学校区約 10.8%）を占めている。園児は、岡山市内全域から登園しており、33 小学校区から通っている。入園地域の割合は、昨年と同様で大きな変化はない。

２．施設の概要

・敷地面積　4180.52 平方ﾒｰﾄﾙ

（うち駐車場の一部は借地…394.64 平方ﾒｰﾄﾙ）

・延床面積　1144.47 平方ﾒｰﾄﾙ

（園舎 792.49 平方ﾒｰﾄﾙ・増築園舎 251.29 平方ﾒｰﾄﾙ・屋外倉庫 20.72 平方ﾒｰﾄﾙ）

３．定員

・利用定員 120 名（各年齢 20 名）

・認可定員 165 名

４．受入年齢

・生後 57 日目から就学前まで

５．保育時間

（１）保育標準時間

・午前７時から午後６時まで

（２）保育短時間

・午前８時 30 分から午後４時 30 分まで

（3）一時預かり事業の保育時間

・午前７時 30 分から午後６時まで

６．延長保育事業

・午後 6 時から午後 7 時まで

7．職種別職員数

※（　）は非正規の人数・派遣を含む

形態＼職種	施設長	主任保育士	保育士	栄養士	調理員	事務員	保育補助	合　計
常勤職員	人 1	人 2	人 14(2)	人 2(1)	人 1(1)	人 1	人 1(1)	人 22(5)
短時間職員			12(12)				1(1)	13(13)
合　計	1	2	26(14)	2(1)	1(1)	1	2(2)	35(18)

8．年間利用児童数

・定員超過率　117.9 ％　（昨年度比＋3.9 ％）

・月平均在籍数 141.5 人　（昨年度比＋4.75 人）

種別＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	人 11	人 11	人 12	人 13	人 15	人 17	人 18	人 18	人 19	人 21	人 22	人 23	人 200
1歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
2歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
3歳	26	26	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	310
4歳	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372
5歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
合計	136	136	136	137	140	142	143	143	144	146	147	148	1641
入園児数	0	0	1	1	3	2	1	0	1	2	1	1	13
退園児数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

９．一時預かり利用児童延べ人数

（１）年間開園日数　　241日　（昨年度比　－1日）

（２）一日平均利用人数　　10.19人（昨年度比　－3.59人）

（３）のべ利用人数　　2,456人（昨年度比　－879人）

種別＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就労･就学	133	149	152	183	146	129	188	198	182	183	202	193	2038
緊急（出産･傷病･慶弔）	0	0	0	0	0	15	16	19	12	10	0	0	72
私的理由	69	36	32	28	32	24	20	21	11	6	34	33	346
合計利用数	202	185	184	211	178	168	224	238	205	199	236	226	2456

（４）一時保育の動向

地域の利用者の受け入れを開始し、満8年が経過した。利用理由は、緊急が3%、私的が14%、就労が83%になっており、前年度に比べると、私的利用が５%減り、就労が５%増えた。

就労を理由に、毎日登園していた乳幼児が10名いたが、そのうちの9名は、2019年度の入園調整、および、無認可保育園への入園が決まった。

岡山市がすすめる整備事業の拡大により、希望保育園にこだわらなければ、入園できる状況が整ってきていると思われる。

１０．年間行事

（１）年間行事

実施月	保育園行事	健康管理 安全管理 災害訓練	地域行事への参加 行政・他団体との連携行事
4月	進級おめでとうの会 いのちを大切にする日		卒園児の会 お茶会（福祉交流プラザ旭東）
5月	端午の節句の会 劇団風の子観劇 いちご狩り遠足（バス） クラス懇談会		交通安全教室① （岡山市生活安全課）
6月	保護者総会・父母の会総会 クラス懇談会 徒歩遠足 平和の会 親子遠足（バス） ：福山市立動物公園	フッ素塗布① 定期健康診断① 尿検査（３上）	旭東こどもまつり（旭東小学校）
7月	七夕の会 お泊り保育		
8月	プールじまいの会	歯科検診 就学前健康診断	宿題応援隊（岡山医療生協） 民話の会（旭東児童ｾﾝﾀｰ） おばけやしき（旭東児童ｾﾝﾀｰ）
9月	おつきみかい 中秋の名月の会		
10月	ちびっこまつり 芋掘り遠足（バス）	フッ素塗布②	交通安全教室② （岡山市生活安全課） ４園交流運動会 （旭東幼稚園･旭東保育園･博愛会保育園･岡山協立保育園）
11月	徒歩遠足	定期健康診断②	保育街頭署名
12月	お泊り保育 就学前懇談会 クリスマス会 徒歩遠足	救命救急講習会	岡山県保育団体連絡会学習会

1月	油揚げの日 七草の会 鏡開きの会 徒歩遠足		絵本を楽しむ会（旭東小学校）
2月	節分の会 角笛シルエット劇場観劇 おおきくなあれのつどい クラス懇談会	入園前健康診断 フッ素塗布③ 避難･通報･消火訓練 ブラッシング指導（5歳児）	絵本を楽しむ会（旭東小学校）
3月	ひなまつり茶会 おわかれ徒歩遠足 クラス懇談会 卒園式		交通安全指導③
定例	園庭開放 個人懇談または家庭訪問	避難・消火訓練 身体測定	ふれあい会食

（2）行事の取り組みをとおして

園では、年間を通して、子どもたちに様々な体験を、豊かに保障することを心がけており、子どもたちは、季節の行事を楽しみにしている。また、保育の内容を発表する行事では、「プールじまいの会＝プール活動の発表会（8月）」「ちびっこまつり=体育的活動の発表会（10月）」「おおきくなあれのつどい=表現活動の発表会（2月）」などに期待を持って取り組むことが出来ていた。

特に「ちびっこまつり」では、担任が個々の子どもの力を知り、ひとりひとりに合った取り組みを提供することが出来た。保育経験が浅い保育士が多い中で、子どもの姿に合った具体的な手立てを、サポーターや主任、園長などと共に実践し共有する中で、変化していく子どもの姿を捉えることが出来た。

また、「卒園式」では、在園児代表の４歳児、卒園児の５歳児が立派だと、参加された来賓の方より評価していただいた。のべ1時間の式を、どの子も緊張を乗り越え、主体的に堂々とした態度で証書を受け取ることができた。卒園式は、子どもにとって、保育園で過ごした日々の集大成であり、保育園最後の晴れ舞台でもある。この日、卒園式に参加してくださった来賓の方々は、子どもの堂々とした振る舞いや表情、長時間にわたる集中力や歌に対して、高く評価して下さるとともに、子どもが証書に描いた絵が、丁寧に描かれていることに感動されていた。私たち保育士も、成長した子どもの姿や園外からの評価を受けたことで自信につながった。

○2018 年度の各行事への参加延べ人数（園児・保護者・地域の方・職員）

・ちびっこまつり参加者　539 人（前年比 68 人増）
・おつきみかい参加者　444 人（前年比 103 人減）
・おおきくなあれのつどい見学者　160 人（前年比 12 人増）

１１．職員会議及び総括・方針会議

職員会議　毎月第 1 土曜日

総括会議・方針会議　2/11(日)・2/12(月)・2/23(土)

１２．職員研修

（１）研修状況

	主催	研修名	日時	参加者
全国	全国保育問題研究会	全国集会	6/1～3	3人
	全国保育団体連絡会	全国集会	8/4～6	6人
		給食セミナー	12/22～23	2人
	全国幼年教育研究協議会	全国集会	7/28～29	3人
	中・四国経営懇	ブロック総会	6/24～25	1人
		中四国経営懇セミナー（秋）	11/25～26	2人
	全国民間保育園経営研究懇話会	全国民間保育園経営研究懇話会総会	6/10～11	1人
		民間保育園経営研究セミナー	1/14～16	2人
	神戸コダーイ芸術研究所	保育セミナー	6/9～10	1人
岡山県	岡山県民間保育所協議会	新任保育士研修	3/12	1人
	岡山県給食協議会	特定給食施設関係者	10/2	1人
	岡山県私立保育連盟	特別保育セミナー	10/19	2人
	岡山県社会福祉法人経営者協議会	社会福祉法人経営者セミナー	5/22	1人
	岡山県保育協議会	岡山県保育研究大会	1/22～23	2人
津山	ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙすこやかｷｯｽﾞ	運動会種目講習会	4/8	3人
瀬戸内市	あいあい保育園	岡山協立保育園　公開保育	9/11	岡山協立保育園で開催 ＊3歳未満児クラス
倉敷市	倉敷地域保育協議会	岡山協立保育園　公開保育	11/22	岡山協立保育園で開催 ＊全職員
	倉敷コダーイ芸術教育研究所	倉敷新任保育士のための乳児保育研修	4/22	2人
		保育実践研修（乳児）	6/13 7/11 9/12 11/1	4人
		保育実践研修（わらべうた）	5/24 6/19 10/16 11/22	1人
		環境認識例会（幼児の遊びと環境）	6/16 9/15 11/17	3人
		公開保育（連島東保育園）	6/15 6/19	1人 2人
岡山市	岡山市保育協議会	岡山市保育研究報告会	11/24	1人
		岡山市保育協議会総会	5/26	2人
		子どもの育ちと学びをつなぐ～就学までに育てたい力、つけたい力～	6/5	1人
		夏の感染症と対策	6/14	1人

		子どもの造形表現の世界	8/1	1人
		子どもの良さを引き出す保育 子どもの見方を変える保育	9/12	1人
		発達障害のある子への関わりと援助の方法	11/21	1人
		乳幼児期の発達・発育と食育	12/22	1人
		子どもの命を守る 危機管理と保護者対応のトレーニング	1/12	1人
		子どもの創造的想像力を育む	2/5	1人
	岡山市保育協議会 4ブロック	給食調理員・衛生管理者研修	11/8	
		研究委員会	年18回程度	1人
	岡山市保健所	特定給食施設栄養管理者研修会	10/2, 2/5	1人
	岡山市役所河川計画課	要配慮者利用施設の避難確保計画作成に係る研修会	3/13	1人
自主研修	岡山保問研　例会	食育	2か月に 1回程度	2人
		乳児		3人
		障がい児		2人
		あそび		4人
園内研修	園内保育研修会	公開保育　　1回（野崎末子）	10/22～26 11/6～10	全職員
		保育観察・事例検討 講演会　　　2回（田中真介）	9/28～29 2/23	全職員

（2）公開保育

ここ数年、毎年各地から公開保育の依頼を受けているが、今年度は、以下の2回の公開保育を実施した。また、施設見学とともに経営に関する相談を受けることもあった。

① 「倉敷地域保育協議会」

倉敷市内民間保育所41園から、49名が参加した。今回は、「育児担当制と流れる日課」の保育観察がテーマだったため、3歳未満児を中心に、前半と後半に分かれて観察してもらった。また、クラスの観察ができない時間は、幼児クラスの観察や施設の見学を行った。

保育観察後は、福祉交流プラザ旭東に移動し、午後から、観察したクラスに分かれてグループ討議を行った。このグループ討議に、各クラスのリーダーが参加し、観察者からの質問を直接受けていた。グループ討議後は、園長から保育の内容に触れながら、資料を基に保育士の処遇改善や職員育成の取り組みなどを解説した。

今回は、観察したクラスごとに、クラスリーダーを交えての話し合いがあり、担任も、自分のクラスの保育に関する質問に熱心に答える姿が見られた。そういった機会は、自分の保育を語ったり、観察した方の感想やご意見を直接聞ける機会となり、職員にとって、学びが多く良い経験になった。

後日、感想文集が届けられた。その中には、以下のような内容が記載されていた。

・子どもたちが、自分で好きな遊びを見つけ、保育者や友達とのやり取りを楽しみながら、落ち着いて遊んでいました。安心し、集中して遊ぶことができるのは、保育士が穏やかにゆったり

と関わっていたことや、机や棚の配置を工夫し、子どもが好きな遊びを選べるようにしていたからではないかと考えました。これからの保育の参考にしたいです。

・グループ討議では、若い先生と聞いていましたが、自分の意見もはっきりと聞かせてくれたり、疑問にもしっかりと答えてくれて、良い先生だなーと思いました。

・「私が担当よ！」ではなく、「子ども達に選んでもらえる先生になってほしい」という言葉は、胸に熱く残りました。

・園長先生やベテランの先生が、新任の先生に対し期待と信頼を寄せ、指導やサポートをしている姿が印象的でした。それを受けているから、若い先生も自由に意欲的に仕事に向かっていると、討議の中で感じました。

② 「（社福）あいあい保育園：瀬戸内市」

あいあい保育園では、保育現場から担当制に取り組みたいという要望が出たため、実際の保育を見学し、学習したいという内容で、公開保育の依頼があった。当日は、園長・主任・乳児保育の責任者など 4 名の参加があった。0 歳児と１歳児を中心に見学し、環境構成や保育の流れ、担当制の決め方や保育士の仕事内容などについて、質問に答える形で見学学習した。

その後、当園の給食を食べた後、保育で大切にすべきことや具体的な日課の立て方、本の紹介などを行った。

参加した先生は、「どの研修に行っても、担当制の保育実践を聞く機会が増えている。その中で、担当制の良さを聞くことが多く、自分達もやってみたいと思った。見せてもらって、難しそうだが、本も買って、みんなで勉強して取り組みたい。」と話していた。

（３）経営相談

「（社福）のぞみ保育園：高知市」

全国民間保育園経営研究懇話会のメンバーでもある、のぞみ保育園からは、理事等４名の来園があった。高知市は、最近まで保育士給与の公私格差がなかったが、単市の補助金がなくなったため、人件費率が急激に上昇してきたとのことだった。今回は、改善の糸口を見つけるための訪問で、当園の経営や運営に関する話を聞きたいということだったので、当日は、保育園見学と経営に関する話をした。特に、予算の立て方や処遇改善Ⅰ・Ⅱでの、当法人の実践についての話をした。

（４）職員研修

毎年、さまざまな研修会に参加しているが、今年度も、講師を招いての研修会に力を入れた。これは、若い職員が多くなっている中で、職員みんなで保育を観察して分析したり、講師に助言を頂くことで、理論と実践を結び付ける力を身につけることを目的にしている。また、発達の学習にも力を入れ、子どもの発達段階を理解し、保育を具体化するために職員みんなで学ぶ機会を大切にした。今年も、園内研修を公開し、ともに学ぶ仲間がいることで、保育をよりよいものにしたいという思いを共有でき、職員の励みになった。

研修内容は、以下の通りである。

① 保育実践学習【講師：野崎末子（保育環境・育児アドバイザー）】

3 歳未満児クラスと３歳以上児クラスに分けて２期実施した。観察後、実践場面を録画した

動画を使い、自分の保育を客観的に見ながら課題を明らかにした。子どもの現状や発達にあった環境構成、子どもの日課や大人の動きの見直しなど、クラスが抱えている問題について、解決策を職員同士で話し合った。その中で、気が付いたことや提案されたことについて、取り組めることから実践していくように心がけた。

話し合った中身を、主体的に実践に取り入れる中で、子どもがより能動的に遊べるようになったり、子どもと大人の関係性がより深まるなど、自分たちがやったことの結果を実感することができ、職員の自信につながったと感じている。

また、観察の中で、講師から細かい部分の問題点を指摘される場面もあったが、職員は自らの保育の向上のために助言を受け入れる部分と、取り組みの意味をみんなに説明し、経過の中での一場面として理解することで、指摘された内容を継続すると決意する場面もあった。このように、自分の考えを持ち、対話して保育の手立てを決める姿が見られるようになっている。

② 発達研修【講師：田中真介（京都大学国際高等教育院准教授）】

発達研修会は 2014 年度から継続的に実施している。「発達がわかれば子どもが見える」を合言葉に、みんなで学び共有することや実践することを丁寧に行ってきた。

第 1 期（2014 年度）は、「3 歳未満児」と「３歳以上児」の 2 つの段階に分け、2 講座各 2 時間でおこなった。

第 2 期（2015 年度～2017 年度）は、「乳児期前半・後半（０歳～1 歳半）」「幼児期前期（１歳半～２歳）」「幼児期中期・後期（3～6 歳）」の 3 つの段階に分け、3 講座各 3 時間で行った。

今年から始めた第３期（2018 年度～2022 年度）は、「乳児期前半」「乳児期後半」「幼児期前期」「幼児期中期」「幼児期後期」の５つの段階を、各 3 時間で研修するものになっている。今年度は、「乳児期前半」の学習会を行った。講演会には、毎回、公私立保育園や無認可保育園の園長や保育士、保護者、教員、研究者など幅広い参加があった。子どもの育ちは、単に「出来なかったことが出来るようになる」といった単純なものではなく、連関しながら総合的に質が変わっていくことやエネルギーの強さが大切であることなど学び、参加者にも好評だった。また、先生の専門分野でもある「予防接種」についての学習もした。

保育実践の研修では､乳児で気になる子どもについて､実際の保育場面での子どもの様子を、先生に観察してもらい、事前に担任が用意した分析資料と共に、発達段階の確認や援助の仕方について分析した。そのほか、園内での事例検討に取り組みやすいようにと、「インシデントプロセス法」を教えて頂き、実際に、先生と職員で事例検討を行った。みんなで、気が付いたことを出し合い、新たなかかわり方を工夫することで、自分にはなかった見方や捉え方に気づき、考え方の変換に繋がることもあった。

③ 合宿総括・方針会議

『いいとこ探し』

今年は、職員からの要望もあり、職員一人ずつについて『いいとこ探し』を行った。事前に、その人の「印象」「いいところ」をメモに書いてもらい、当日は、書いた対象者にそのメモを渡し、その対象者は自分について書かれたものを、みんなの前で読み上げて発表した。

会場は、笑顔と笑いの渦で、職員からは「こんな風に見てくれてうれしい」「評価してもらったことを、もっと頑張ろうと思った」などの感想が寄せられた。

『気づき発表会』

一年間を通して、自分が気づいたことを、持ち時間７分間で発表した。職種や経験によって、発表する内容には違いがあるが、職員は自分が話す内容をノートにまとめ、少しでもわかりやすく伝えたいと努力していた。このような経験は、日常的にほとんどないため、時間が短すぎて言い足りない人から、長すぎて言うことがないという人もいた。中には、一年間自分が悩んだことを書き記し、どう改善したかも書いておき、それを文章にして発表した一年目の保育士もいた。その話を聞き、職員はみんな感動し、発表後の会場は、温かく力強い拍手と先輩の涙で包まれた。

『学習：新保育論のためにー鯨岡峻』

鯨岡先生の講演会に参加し、職員みんなで学びたいと思い、この書籍を選定した。みんなで読み合わせしたのは、第 1 部の理論編で、第 2 部以降は事例が載っているので、職員会議で一つずつ読み合わせ討論することにした。

第 1 部は、人間とはどういう生き物ものかが書かれてあり、「自分は自分」「自分はみんなの中の自分」という 2 つの欲求を持ち合わせているということを学んだ。そして、「保育する」営みについて書かれていて、保育士と子どもの「いま、ここで」の瞬間を「動態」として捉えることが大切であることを学んだ。その時の感情も、お互いの関係性の中で、保育そのものが変化していくことや、今の自分が「ある」ところから、なりたい自分に「なる」ことで、「なる」は「ある」に代わり、また新たな「なる」へとむかっていく。こうして、人間は留まることを知らず、常に正負両面において変化していくということを学んだ。子どもの中に肯定的な感情を生み出せるような実践をどう作るか、それを第 2 部で学ぶことにしている。

第 1 部を学んだ職員の感想を、一部抜粋して紹介する。

・子ども達にどんな「なる」を提供してあげられるのか、いまの「ある」から次の「ある」に向けて、どんなイメージを持たせてあげられるか、そのためには、いまの「ある」をしっかり受け止めて、人間らしい関わりを持っていけたらと思います。

・この研修で一番心に残ったことは、「いかに否定的な経験を、子どもの心に沈殿させないように対応するか」「負の心の動きを前向きな心の動きに転換できるか」というところで、大人がどう対応し子どもの心を動かすことができるか、本当に難しいと感じた。

・大学の時は、人の心を動かすことについて学ぶことはなかった。改めて「人の心を動かす」ことは、保育にとって大切なことだと思った。どうしたら気持ちが変わるのか、子どもに寄り添っていきたい。

・人間同士の関わりで、矛盾を感じることは多くあります。子どもと保育者にも、一人の人間として「自分は自分」「自分はみんなの中の自分」という２つの欲求があるからこそ、ぶつかり合い、認め合い、成長できるのだと感じました。

１３．その他（建物等修理・修繕の実施、設備・備品等の整備内容等）

（1）土地の取得

・園庭用地；岡山市中区桜橋三丁目７７３番６・７７３番１３・７７３番１５

（2）建物・備品等の修理・修繕

・ブラインド修理
・0歳児保育室　エアコン室外機修理
・インターホン増設
・食器洗浄機　排水ホース交換
・本園舎　建物周囲のコーキング修繕
・ホール　エアコン修理
・ｽﾁｰﾑｺﾝﾍﾞｸｼｮﾝｵｰﾌﾞﾝ　軟水器ｶｰﾄﾘｯｼﾞ交換
・電話機　修理
・新園舎トイレ入替工事
・業務用炊飯器　基盤交換修理
・食器洗浄機　上部水漏れ修理
・食器洗浄機　下部洗浄ﾉｽﾞﾙ受け・洗浄ﾊﾟｯｷﾝ（部品交換）
・事務所タイルカーペット　張替え工事
・空気清浄器　ユニット定期交換
・生ごみ処理機　修理
・園舎　床ワックス塗替え
・食器洗浄機　上部水漏れ修理
・屋外トイレ　つまりぬき修理

（3）設備・備品等の整備
・プラフォーミングＤＸセット
・おむつ交換台
・シャワーシステム一式
・園庭　水汲み場新設工事
・乳児用避難車（トリオカー・スリムともだち）
・ノートパソコン2台

事　業　報　告

II．岡山協立保育園事業報告

1．保育方針とめざす子ども像

（1）保育方針

・一人ひとりの子どもを大切にする

・父母の労働を保障する

・父母と園が連帯を持って、地域の人々の信頼と協力を得ながら保育の輪を広げる

・職員は保育の向上と充実に向けて学習につとめる

（2）めざす子ども像

・健康な子ども

・生活やあそびをつくりだす子ども

・ともだちと共に育つ子ども

・働く喜びがわかる子ども

－私たちの保育についての考え方－

私たちは、「一人ひとりを大切にする」という理念を持っている。集団保育の中で、一人ひとりを大切にする保育を実践するため、乳児保育では「育児担当制」と「流れる日課」を、幼児保育では「異年齢混合保育」に取り組んでいる。

① 乳児保育：0～2 歳児

「育児担当制」

子ども達は、毎日決まった大人に関わってもらうことで、情緒が安定し、落ち着きの中で深い人間関係を築いていく。そういう当たり前の暮らしを保育園で保障するために、一人ひとりの子どもに担当の保育士を決め、子どものことをより深く理解し、目に見えにくいちょっとした心の変化や、昨日と違う今日の変化も感じ取れるように心がけて保育をする。

「流れる日課」

この時期の子どもの成長発達にとって、"眠り"は最も大切なもので、「眠り」を中心に、一人ひとりに合わせた一日の日課を作る。自ら眠り、おなかいっぱい食べ、しっかり遊んで、また眠る。この繰り返しが、やがて生活の見通しになり、自分で生活できる力の土台（主体性）をつくると考える。

② 幼児保育：3～5 歳児

「異年齢混合保育」

３歳以上児は、３・４・５歳の異年混合保育を行っている。この保育は、少子化が進み地域社会が閉塞的になり、異年齢での交流が少ない現代において、子ども同士の関わりを豊かに保障するねらいがある。異年齢混合保育は、子どもの心の中にあこがれの気持ちや思いやりの気持ちを育て、自分自身に対する自己評価や自己像の形成を助ける。また、子どもたちのつながりが自然

にでき、友達の見方が多面的になる。異年齢の存在があることで、子どもや保護者が、大きくなることへの見通しを持ちやすく､保育士も３年間の発達段階の中を生きるひとりの子どもとして、その違いにより注目し保育していくことが可能になると考える。

【保育内容をとらえる視点】

保育士は、普段の保育の中で、子どもが出来るようになった「結果」だけでなく、取り組みの「過程」の中にある、子どもの「ちょっとした変化」や「心の葛藤」を、その都度言葉にして丁寧に伝えることを心がけている。また、こうした対応は、大人が子どもを「認める」といったレベルにとどまらず、行動と言葉と感情が一致することで、その子の「考え」や「思い」が明確になり、やがて自己を確立する段階で、「自己一致した人間」に育つと考えている。

この丁寧な関わりこそが、私たちの『保育の質』の中心にあるものだと考える。また、大人に変化を認めてもらうことで、自分自身の変化に気付き、よりよい自分になろうとする意欲（向上心）を引きだすことにも繋がり、このことが「自己肯定感」を形成していく基になると考える。

保育で大切なことは、子どもがやってみたら「できたーできなかった」「面白かったー難しかった」「自信になったー不安になった」という子ども自身が感じる感情（左右対称の明確な感情ではなく、もっと複雑な心の動き）を、大人が理解し共感することである。そして、大人が理解してくれたからこそ生まれる安心感やそこを基盤とする向上心、そしてチャレンジし達成できた時の喜びが自信になり、さらなる高みを乗り越えるための新たなエネルギーになっていくと考える。

また、保育士は子どもとの関係の中で、「受容と共感」が成立していくにしたがって、より本格的な指導を展開できるようになると考える。型にはめる指導ではなく、子どもの受け取りを大切に「共感と納得」の指導は、「ここではこんなことをしてはいけない」「ここはあなたが頑張らないといけない」など、子どもの心に迫る指導が可能になる。このことによって、子どもは「自分コントロールする力」を身につけるのだと思う。

私たちは、子どもひとりひとりをよく見て、子どもの心を支え育む保育を、これからも実践していきたい。

【保育の形態】

岡山協立保育園では「就学準備型保育」ではなく、「生活基盤型保育」を実施している。子ども自身が持つ興味や関心を保育の中で発展させるため、3 歳以上児の異年齢混合クラスでは､毎日「課業」を実施している。「課業」は、文学、環境認識、数学、描画と手仕事、体育の 5 つの分野がある。

特に、環境認識は、子どもの身近な知識を保育士とともに整理し、その知識を遊びに生かし、再認識する取り組みとして行っている。深い学びや対話的学び、主体的学びを実現する保育になるよう、私たちは、知識を教え込むのではなく、人や物などの環境を豊かに整え、「子ども一人一人の遊び込み」を大切にしたいと思って取り組んでいる。

子どもは自ら遊び始めるが、その姿から、その時間を過ごしているだけの「遊びっぱなし」になっていないかについての議論を始め、より深く遊びの質について学びたいと思っている。新保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」をもとに、子どもの姿の中で、今どんな力が身についているのかを語れる保育士になれるようにこれからも努力したい。

【食育活動】

今年度も、３歳児以上児が、季節の食材にかかわる取り組み（筍の皮むき、空豆のさやむき、トウモロコシの皮むき）を行った。

5 歳児は、保育園駐車場内のひまわり畑に、季節の野菜を栽培収穫し、調理して食べる取り組みや、毎日行う当番活動では、給食の下ごしらえ当番（皮むきや野菜を切る作業）やおやつ当番などにも取り組んだ。子ども達も、保育園の給食を支える活動であることを自覚し、意欲的に取り組む姿があった。また、下ごしらえ当番は、子どもが家族の一員として家事の一部を任され、頼られる存在であってほしいという願いも込められた取り組みだ。

とくに食べることに興味の薄い子どもは、生活全般でも受身で、さまざまな経験が乏しい傾向がみられる。毎日の生活に、自分自身が関わり認めてもらえる経験は、自らの存在意義を感じる尊い経験となる。これらの取り組みは、子どもへの刺激となり、良い変化がみられることが多かった。今後も、必要な仕事を任される経験や毎日行われる生活の営みに、自ら関わることで、子どもの生活力や主体性を育む保育に取り組みたい。

【障害児保育】

私たちは、みんなに等しく同じだけという考え方ではなく、「必要な子どもに、必要なだけの援助を提供する」という考えが平等であると思っている。そういった中で、私たちは、子ども一人一人に合った個別の支援を大切にしている。職員会議や田中研修では、子どもの見方や対応について、本での学びやグループ討議、保育観察や事例検討などを行い、援助の仕方を具体的に学んでいる。

今年度末は、148 名中 8 名（5.4%）が自閉症スペクトラムなどの発達障害を抱えていた。また、診断は出ていないが療育に通っている子どもを含めると、12 名（8.1%）が該当していた。特に、年長児（5 歳児）では、21 名中 4 名に診断書が出ていて高い割合だった。

そういった中、5 歳児集団としての取り組みでは、子どもの要求に細やかに対応するため、活動グループを少人数にし、時間的ゆとりを持って取り組んだ。子どもたちは、集団活動に期待と意欲をもっており、仲間と共にやり遂げたいという思いから、頑張る姿が見られた。

一方で、3 歳以上児（異年齢混合）クラスの職員配置は、以前よりも手厚くなっているが、障害児以外にも、要支援家庭が増えおり、それらへの支援に力を注ぐ必要性が高まってきている。保育観察では、講師の先生から、「クラスリーダーが、障害児の担当をしながら保育運営の責任を担うのは大変ではないか」という意見を頂戴した。しかしながら、クラスリーダーは、「今まで通り障害児を担当しながら、クラスも運営したい」との意向だったため、視点を変えて、再度障害を持つ子どもの発達段階を確認し、具体的な関わり方の方法を話し合った。どちらか一方を選択する考え方もあるが、このように、もう一度考え見直す中で、子どもの成長に結びつけることができ、一定の成果が得られた。

【安全対策】

① 非常時訓練

月 1 回の「避難訓練」「通報・消火訓練」を実施した。3 月には、中区消防署旭東出張所の職員立ち会いのもと、避難訓練と水消火器を使った消火訓練、火災報知機を使った通報訓練、そし

て、消防自動車の見学を行った。

毎月の避難訓練の成果もあり、子ども達が静かに迅速に避難する姿を見て、消防署員が「避難時間も短く、避難態度も良かった」とほめて下さった。

「避難訓練」は、火災、地震、水害などを想定した訓練で、不審者訓練は、職員の役割や動きを書いたシュミレーションを配り、確認することのみを行った。次年度は、不審者の訓練もしたい。

② 気象警報発令時等における臨時休園

7 月の豪雨災害を受け、県内各地で「気象警報発令時等における臨時休園」のガイドラインが発表された。これらの中身については、保護者に周知するとともに、職員会議で共有した。

③ 非常災害時への対応

非常災害時の備蓄食料（離乳食含む）を、園児と職員で 6 食分、屋上に用意しているが、来年度は、消費期限を迎えるものがあるため、2 食分の入れ替えが必要となる。また、簡易トイレ・アルミシート・メガホン・ラジオなども準備し、岡山市より支給された「岡山市緊急告知ラジオ」も、緊急地震速報や避難勧告・指示などを伝えるものとして、設置させてもらっている。

園では、緊急時の連絡を保護者と確実に行うための緊急メールを設置している。このシステムは、県外にメールサーバーがあり、子どもたちの安否情報を確実に伝えることが出来るとされている。

④ 事故への対策

毎年行っている、岡山協立病院職員さんによる「救命救急講習会」を 12 月に行った。保育園に設置してある、乳幼児や大人用のＡＥＤの使い方や、心肺蘇生、誤飲時の対処などを、保護者を交え実践した。

【参観・懇談会】

保育参観（年 2 回）や個人懇談または家庭訪問（年 1 回以上）などを通じて、保育中での子どもの姿を参観したり、子どもと一緒に活動する機会や、担任と保護者が話をする機会なども設けた。保護者の状況を見るとき、園行事への参加人数は毎年増えているが、クラス懇談会の参加者は、それに比べて少ない現状がある。今年度は、クラス懇談会で子ども達の普段の様子を動画で上映するだけではなく、子どもの状況から、懇談会のテーマを設定して話し合った。3 歳以上児は「メディアの影響について」、2 歳児は「早寝、早起き、朝ご飯」に関する書物を読んで、保護者同士話し合い、終始なごやかに懇談会が進んだ。

○保護者の参加状況

・保育参観（保育参加）に参加した世帯数　95.1%（前年比 0.5%減）
・個人懇談または家庭訪問実施した世帯　96.2%（前年比 5.2%増）
・クラス懇談会に参加した世帯　60.7%（前年比 2.3%増）

○保護者の感想より　（クラス懇談会の感想の一部を紹介）

・子どもの普段の様子がわかってよかった。
・先生がどのような取り組みで、子どもたちと接してくれているかがわかって良かった。
・子どもの園での様子や園での取り組み、小学校入学に向けた課題がよくわかり家庭で具体的にどうしていくか考える手立てになった。
・スライドショーで、元気な我が子の様子を見ることができてよかった。

・先生からの発達の説明が、よくわかり参考になった。
・いつもなかなか話の出来ない保護者の方と話すことができて、みんな同じだなと思い、安心した。家に帰り「自分だけじゃないんだ」と、少し穏やかに子どもと接することができた。
・同じ年の子どもをもつ親同士の悩みが似ていて、解決策もそれぞれ違っていて参考になった。

【父母の会活動】

役員会が、毎月 1 回開かれた。「おつきみ会」や「ちびっこまつり」の実行委員会や当日の準備などに保護者が積極的に参加した。また、「親子ねんど教室」「親子クッキング（ピザ）」「親子バス遠足（いちご狩り）」「リユースフェスタ」「父母の会バザー」などを行った。保護者の特技を生かしたり、さまざまな要求を実現し、親睦が深まった。家族や仕事のことなどを話す機会が持て、保護者同士が繋がる機会となった。

【地域との交流】

① 高齢者との交流

5 歳児が「旭東ふれあい会食」に参加し、お年寄りとの交流を楽しんだ。

② 学童との交流

旭東小学校「子どもまつり」で、小学生が作った様々な遊びのコーナーに、子どもたちが参加して、学童とふれあう機会を持った。

③ 地域の施設で交流

旭東児童センターでは、「民話の会」や「お化け屋敷」に参加した。

福祉交流プラザ旭東では、「コンサート」に参加した。

普段と違う場所で、楽しい時間を過ごした。

④ 他園との交流

岡山協立保育園の「劇団風の子観劇会」に、博愛会保育園、旭東保育園の年長さんが参加し、ともに楽しい時間を共有できた。

旭東幼稚園で開かれる「4 園交流運動会」では、博愛会保育園、旭東保育園、岡山協立保育園が参加し、毎年運動会ごっこを楽しんでいる。各園からの出し物もあり、子ども達は楽しく参加した。

旭東小学校図書館で開かれる「絵本の会」では、図書館司書の方が、博愛会保育園、旭東保育園、旭東幼稚園、岡山協立保育園を含む 4 園の 5 歳児に、絵本の読み聞かせをしてくれる。子どもたちは、大きな期待をもって参加している。

⑤ ボランティアとの交流

地域の方の特技を生かし、絵本の読み聞かせや折り紙など、子どもたちに豊かな経験や体験を保障していただいた。絵本の読み聞かせでは、子どもたちの集中力や聞く姿勢が素晴らしいと褒めて頂いた。

⑥ 子育て支援の取り組み

（園庭開放）

地域に保育園を開放する園庭開放を 7 回開催した。園庭開放をきっかけに、保育園に親子で足を運び、子どもたちが生活する様子を実際に見ることで、一時預かり事業の利用を希望する方もいた。今年度は、年明けからインフルエンザなどが流行し、開催回数が減少した。

（医療生協と共同の取り組み）

毎月開かれる「子育てサポート委員会」で、子育て支援の中身を具体化して取り組んでいる。具体的には、「どんぐりフェスタ」「ママ's カフェ」「タッチケアー」「夏休み宿題応援隊」などがある。

特に、「夏休み宿題応援隊」では、学童が園児のためにおやつを作り、お店屋さんごっことしておやつを販売する取り組みを行った。学童も、喜んでおやつを作り、看板もそれぞれのグループで特色のあるものを作成していた。園児も大喜びで双方の交流にもなり、盛り上がり楽しめた。

経　営　報　告

１．総合評価

今年度は、昨年度に引き続いて人事院勧告の上昇による委託費の単価改定が実施され、人件費分が＋0.8%の改定となった。そのため、今年度は昨年度までの人件費支給基準額に約 971 千円が上乗せされた。

勘定科目で大きな変更があった。保育利用の認定を受けた児童の利用料収入について、利用者等利用料収入が新たに設定され、保育用品費用・行事参加費用・3 歳以上主食費・駐車場利用料など、細かく分類することとなった。

保育事業収入のうち、補助金事業収入では、保育支援者配置助成事業費補助金収入として、年額 1,080 千円の補助を受けた。資格を有しない職員が保育士の業務を軽減する業務にあたり、かつ、前年度の人員以上の確保をした場合に人件費に対しての補助を受けることが出来る。一時預かり事業補助金収入は、利用者の減少により、昨年度と比較して-2,270 千円となり、著しく減少した。また、障害児保育対策事業補助金は、昨年度と比較して 2,286 千円の減少だった。

人件費支出においては、昨年度と大きな差異はなかったが、岡山県民間保育所職員共済制度による退職給付支出として 659 千円を計上した。

事業費支出は、昨年度とほぼ変わらず、約 17,500 千円支出した。給食費では、昨年度は野菜の高騰があったが、今年度は安定していたため-448 千円だった。消耗器具備品費で、昨年度と比較して支出額は増えていないが、給食室内の備品・消耗品や児童の食器具の大幅な補充を実施したため約 200 千円、経年劣化による洗濯機の買い替え（2 台）で約 130 千円、3 歳以上児の児童数増加による机といすの補充で 201 千円などの支出があった。賃借料支出では、今年度より、新たに貸しおむつの利用を開始したため、336 千円の支出があった。ただし、貸しおむつ代については、利用者等利用料収入の保育用品費用において、保護者より 315 千円の収入があった。

事務費支出は、昨年度と比較して+3,522 千円だった。研修研究費が昨年度と比較して＋561 千円と約 4 割増の支出となった。修繕費は、昨年度と比較して＋1,921 千円増加して、2,393 千円支出した。大規模なものとしては、新園舎トイレ入替工事 900 千円、空気清浄器ユニット定期交換 572 千円（16 台分）、事務所ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ張替工事 393 千円、本園舎建物周囲のコーキング 200 千円、計 2,065 千円があった。その他、ホール等のエアコン修理 80 千円（3 件）・屋外トイレ詰まり抜きほか 33 千円（2 件）、給食室備品として食器洗浄機修理 61 千円（4 回）・生ごみ処理機ほか修理 47 千円（3 件）、事務所備品としてインターホン増設 66 千円・電話機ほか修理 35 千円（2 件）などだった。

施設整備においては、土地の取得に対して 20,219 千円の支出があったため、保育所施設設備整備積立金を 20,000 千円取り崩して、取得費用に充当した。また、屋上ウッドデッキの改修費用 1,900 千円、園庭水汲み場の新設 972 千円を建物附属設備として取得した。

積立資産支出では、2019 年度の土地取得費用に充当するために、補正予算では保育所施設・設備整備積立金 12,000 千円の積立てとしていたが、4,000 千円を増額して 16,000 千円を積み立てた。保育所施設・設備整備積立金の現在高は、土地取得のための 20,000 千円のほか、園舎の修繕計画に沿って積み立ててきた 24,000 千円となった。また、人件費積立金については、約 3 か月分（約 38,000 千円）の人件費支出額を積み立てることを計画しているが、今年度は積み立てな

かったため、現在高 24,000 千円のままとなっている。
　法人全体の貸借対照表で前年度末と比較すると、流動資産は+377 千円、固定資産は+3,267 千円となった。当期活動増減差額は前年度より-3,560 千円だったものの、17,241 千円あるため経営状態は良好であるといえる。